



日野学園だより

42

品川区立小中一貫校 日野学園

校長 青木 経

ホームページアドレス <http://www1.cts.ne.jp/~hinogaku/>

平成21年12月1日

1年間の締めくくる

保護者・児童・生徒による学校評価・授業評価

校長 青木 経

師走を迎えた学校では、PTAサポーターズの皆様による屋上の農園整備と、校庭の樹木に温かなイルミネーションが点灯されました。

早いもので、9年5組の担任であった柳川晋利先生が虚血性心不全のために、ご自宅で亡くなられてから1ヶ月余りが過ぎようとしています。9年生にとっては、あまりに突然の訃報に驚きと悲しみで心の整理もつかないままに、つらい時期を乗り越えようと一人ひとりの生徒が、必死に現実と向き合っています。9年生の面接指導が昨日より始まりましたが、校長として個人的に直接指導ができる唯一の時間ですので、15分間を有意義な時間として生徒たちが捉えることができるようにしたいと思います。

さて、11月の市民科学習では7年生が2つの大きな単元に臨みました。一つは11月12日(木)の茶道授業でした。品川区では、3・4年生において文化創造領域の文化活動能力として「日本文化の礼儀作法を知る」という単元で茶道体験があります。本校でも恵まれた施設を活用して、今月には茶道の基本的なお点前のご指導をいただくことになっていますが、本年度から7年生も茶道を取り入れることとしました。これは、本校の施設の有効利用の面もありますが、一番の目的は茶道を通して、相手に誠意を尽くす意味、自己を見つめる態度と姿勢を身に付けさせることにあります。現在の7年生が9年生になるときは、一人ひとりの生徒がお点前ができるようにするため今回の授業では、指導者の富澤宗月先生から茶道についてのお話と、座る姿勢やあいさつの仕方など普段の生活に通じる内容の指導をしていただきました。

また、11月21日(土)には地域避難所訓練に7年生が全員参加して、地域の方々と共に活動しました。本校の課題として、地域との連携活動が少ないとのご指摘がありましたが、災害時には日野学園の生徒たちの存在が頼りとなる必要があります。当日は、八町会・一自治会の皆様と4つの訓練内容に加え、品川消防署と品川消防団第4分団(山口裕二団長)によるご指導を受け、放水訓練を実施いたしました。生徒たちにとって初めての防災訓練でしたが、品川区防災課の全面的なご協力の下、地域とPTAの方々による米炊き出し訓練で作られたおにぎりを配給され大変意義のある活動となりました。本校では5年生～7年生ブロックにおける7年生のリーダーとしての自覚を促す活動に力を入れていますが、市民科の授業を通して生徒たちは確実に成長しています。

1年間の締めくくりとして、保護者全員の皆様に学校評価をしていただくことにしました。本校は現在977名の児童・生徒数を数え、保護者全員の皆様からのご意見をお伺いする機会は学校公開や学校行事など限られていました。しかしながら、現在推進している経営方針が保護者の皆様にとどのように受け止められ、どのようなご意見をお持ちであるかを整理することと、保護者の皆様の声を来年度の学校経営に反映させることが必要です。評価内容は、40項目余りに絞り能率良く作業を進めるためにマークシート形式を主体とします。現在、評価項目を選別する作業に入っておりますが、2学期終業式までにはお子様を通して配布し3学期始業式には回収させていただきます。一貫校としてよりよい学校づくりのために、是非貴重なご意見をいただきたいと存じます。また、同時に児童・生徒による授業アンケートも検討中です。

最後になりましたが、地域・保護者の皆様には12月19日(土)PTA主催の餅つき・開校5周年記念基金バザーへのご協力とご来校をお願い申し上げます。

受け継ぐ・創る 日野学園の伝統

日野学園が開校して4年。日野学園の新たな伝統を作るべくさまざまな教育活動に取り組んでいます。開校当時から実施している異学年交流の「B & S活動」はもうすっかり定着し、1年生と9年生のかかわりは、新たな子どもたちの関係性を見せてくれています。また、昨年度からの1～4年生中心の運動会で見せる7年生の頼もしい運営力は、子どもたちの活躍できる場を設定することの大切さを教えられます。さらに、本年度から4年生の委員会活動を本格的に始動させています。縦割り集会でリーダーとしての活動を経験し、前回のブロック集会では掃除に関する「Q & Aゲーム」を運営し、掃除の基本のお手本を示しました。

さて、異学年交流の他、学力の向上・基礎基本の確実な定着と豊かな人間性の育成を目指してさまざまな教育活動に取り組んでいます。今回は、1～4ブロックを中心にご紹介いたします。

「学力を支える3つの基盤」

一貫教育推進部主幹 吉川信次

先日、テレビをつけると幼児教育に携わっている方が、次のようなことを語っていました。『第3位 話を聞くこと 第2位 自分のことは自分で行うこと 第1位 集団行動』これは、昔の子ども（幼児）と比べてできなくなってきたことを順位で表したものです。確かに今の児童の実態を見ると、痛感させられる課題ばかりです。話を聞くことは、授業内容を理解するために必要不可欠なものです。また、自分で学習道具をそろえ、身の回りの整理整頓をすることも大切です。さらに、学校での学習は集団で行うことが多く、話し合い活動、グループ活動も多様に取り入れています。この3つの課題は、まさしく学力を支える基盤であり、特に低学年のうちから確実なものにしておく必要があるのです。

1～4年ブロックでは、先月『忘れ物 0 月間』として宿題や学習道具の忘れ物を無くしていく取り組みを行いました。その中で効果的だったのは、毎日、保護者の方に連絡帳などにチェックをしてもらい、保護者と担任が連携しながら忘れ物を無くしていく方法でした。お子さんの現状を把握し、担任と協力し合うことが一人一人の課題解決へとつながっていきます。12月7日から個人面談があります。学力を支える3つの基盤を話題にするのもよい機会だと思います。

生活科「わたしの木」

1学年主任 石川 聡枝

周りをビルに囲まれて、授業で気軽に自然に触れることが難しい日野学園の子どもたちですが、土や木や草に触れ、季節の変化を感じ取ることは、とても大切なことです。そこで1年生では、少し遠出をしても、たくさんの自然に触れ、季節の変化を感じられるようにしようと、林試の森公園を学習の場を選びました。「ぼくの木・わたしの木」という学習では、自分が選んだ木を年間を通じて観察をし、季節の変化を感じ取ったり、変化したことからどんな事象が起こっているのかを低学年らしい視点で想像したりしています。

公園までの往復も、公共の場でのマナーを身につけるよい機会と捉えました。今までに2回ほど出掛けていますが、電車の中での過ごし方や、道路の歩き方は1回目に比べてとても上手になりました。

気軽に出かけられる場所ではありませんが、3学期も真冬の木の様子を観察するほかに、作文学習の題材にしたり、冬芽を見つけて絵を描いたりといった学習活動ができるのではないかと思案中です。いろいろな学習活動が行えるので、子どもたちも楽しく、様々な力を身につける場として、今後も活用していけたらと考えています。

保幼小連携学習「はじめまして、なかよくお茶会」

2学年主任 園田 和子

2年生が、五反田保育園の子どもたちを招いて「お茶会」を開きました。

和室で折り紙や子どもたちの手作りのふく笑いで遊び、歌遊びでいっしょに楽しんだあとは、いよいよお茶会です。お茶菓子は、2年生が生活科で丹精こめて育て、収穫したトマトを使って、子どもたち一人一人が作る「ピザ」です。日ごろは野菜が苦手な子どもも、この日ばかりは小さいお客様に「トマトは食べられる？」「ピーマンものせる？」と声をかけながらピザを作っていました。

お茶会当日まで、子どもたちは小さいお客様が「どうしたら喜んでくれるかな？」と考えながら準備を進めてきました。相手意識を持ち、相手ことを思いやることで、これまで「自分中心」の考え方から、少しずつ脱却し、成長しているようです。

今後も、低学年では保育園や幼稚園との交流を積極的に行い、子どもたちの「心」を育てる指導につなげていこうと思います。



「2時間目と3時間目の間」

教務主任 板橋 海

本年度より、2時間目と3時間目の間に15分間の中休みを設けています。昨年までは、10分間だったので、5分長くなりました。この時間に子どもたちは、元気よく外に出て遊んでいます。1年生はおにごっこ、2年生は一輪車、3年生はサッカー、4年生はドッジボールが人気のようです。校庭のあっちこっちに散らばって、ぶつからないように上手に遊んでいます。

中休みにたくさん遊ぶことで、疲れた頭を一回りセットして、次の授業に臨んでいます。また、中休みの終わりから3時間目の開始まで、5分の時間差を作っていますので、15分間いっぱい遊んでも、3時間目の授業を遅れずに始められています。

いいことばかりの中休みですが、教務の立場から言うと苦労もあります。中休みの終わりの5分間と、5 - 9年生の3時間目の授業時間が重なるのです。5 - 9年生が校庭で体育をやるときには、最初の5分間は校庭の端っこのほうで準備運動をして、1 - 4年生の遊びの場所を確保してくれています。ここでも全校の協力体制がとれています。この問題を解決するために、3時間目の体育はなるべく1 - 4年生が行えるように時間割を調整していますが、完璧にはいきません。今後の課題です。

「1 - 4ブロックの最上級生として」

ブロック長 吉田 真美

二学期は、運動会・連合音楽会など多くの行事があり、4年生には大変実りの多い学期でした。中でも運動会では、4年生としての演技もしっかりと練習していましたが、最上級生として自覚をもって取り組むことを目標にしました。応援合戦や開閉会式での一つ一つの行動が、1年生から3年生の見本となるのだから、しっかりと取り組んでいこうとがんばっていききました。

また、本校で行われているたてわり班活動では、4年生が班長・副班長となって引っ張っていきます。11月25日(水)には、たてわり班に分かれ、4年生が考えた遊びをしました。まだまだ未熟ではありますが、大きな声でわかりやすく説明しようとする4年生の姿を、1年生から3年生も真剣に見ます。4年生についていこうとする下級生の姿を見て、また4年生ががんばります。少しずつ交流を深め、今では休み時間に4年生が下級生と一緒に遊ぶ姿も見られるようになりました。

4年生がリーダーとして、がんばっていく過程には、たくさんの上級生の活動を見ていくことが最も大切であると考えます。運動会の応援団では、一学期に学校を引っ張っていった9年生の応援団を目指していききました。下級生にやさしくするのは、1年生のとき、上級生に温かくお世話してもらった経験が大きく影響していると考えます。4年生として、少しでも先輩たちに近づけるように、子どもたち自らが考えていく活動を大切にしていきたいと思います。

「根っこが大事」

副校長 森嶋 尚子

樫の木はとても生命力の強い樹木と言われています。幼木はまず、垂直に根を伸ばし、その間、幹の成長は遅いけれど、ひとたび根が地中深く伸びて安定すると、その後の成長はとてもはやく、幹や枝葉は荒々しい風雨にも負けずに育つそうです。

先日、校区外部評価委員会が開催され、意見交換の場面で、ある委員の方がこんなことをおっしゃいました。

『人間は生まれおちたときからしつけが始まっていると思います。』

このご発言の後に、『今、子どもたちの問題がいろいろ言われているけれども初めが肝心』という意味のことをご説明いただきました。この言葉にその場にいた方々が様にうなずきました。

4年生の子どもたちが、国語の学習で、自分たちの学校をさらに詳しく知るために校内の先生方に「インタビュー」をしました。インタビューという一つの型を通して人に話を聴く基本を学ぶのですが、まさに人へのかかわり方の「根っこ」を学んでいるといえます。この学習から、人へのかかわり方の多様性に気付き、その応答の方法を身に付け、そして何よりいろいろな人とかかわることの楽しさを味わい、興味関心の幅を広げ、次の学習につなげてほしいと願います。

子どもたちの成長の「根っこ」を強くするために、基本的な生活習慣確立の徹底と学ぶ楽しさを味わい・自ら学びとる授業づくりを今後も進めていきます。そして、ひとりひとりの変化を見逃さず、時には軌道修正を加えながら、保護者の皆様と共に子どもたちの成長を支えていきたいと思ひます。

ねは くさを しっかり ささえています。

おおきなきを ささえているのは おおきなねです。

(平山和子 「ねっこ」より一部抜粋)

12月 行事予定

月	火	水	木	金	土	日
	1 午前授業 5~9年 CAP 3年	2	3 職場訪問 6・7年 茶道体験3年	4 P大崎地区発表会	5 土曜登校日 CAP5年 P家庭教育学級	6
7 面談 特別時程 ~14日	8	9 校内研究会	10 茶道体験 4年	11	12 地域清掃	13 校庭開放
14	15 読書週間~24日 サポートネット出演 8年 健全育成協議会	16 職員連絡会 ブロック会	17 箏体験学習 7年	18 箏体験学習 7年	19 5周年記念 バザー 10:00~15:00	20
21 箏体験学習 7年	22	23 天皇誕生日	24	25 終了式	26	27
28 冬季休業日始	29	30	31			

